

Doboku information



令和7年度 定時総会開催

実施日：令和7年5月26日(月)

当会は5月26日(月)、港区元赤坂の明治記念館「蓬莱の間」において、令和7年度定時総会を開催。議決事項として、令和6年度事業報告・決算報告、並びに令和7年度事業計画・収支予算がそれぞれ承認された。また議事終了後、優良技術者表彰式(詳細はP10に掲載)を執り行った。



第1号議案 令和6年度事業報告並びに同決算報告に関する件

1 技術力向上に関する支援事業

(1) 各種研修会・講習会等の実施

若手技術者の育成や会員技術者の技術力向上のための研修会・講習会を全20回開催した。

① 若年技術者育成の支援

- 建設業新入社員研修会(共催)
4月2日～3日
- 新入社員半年フォロー研修会(共催)
【第1回】10月18日 【第2回】10月21日
- 若手技術者(3～5年次)
フォロー研修会(共催) 11月13日

② 土木施工管理技士資格取得のための支援

- 1級 第一次検定 受験準備講習会(共催)
6月5日～6日
- 1級 第二次検定 受験準備講習会(共催)
8月29日～10月6日 **オンデマンド配信**

③ 基礎的な技能習得のための支援

- 原価管理講習会 5月30日
- 安全管理講習会 6月20日
- コンクリート施工技術講習会(共催) 7月10日
- 環境管理講習会 8月 6日
- 仮設構造物(土留め工)の設計・施工講習会 10月 9日
- 盛土工の基礎講習会 11月22日
- 施工計画の基礎講習会 11月27日

④ 総合的な技能習得のための支援

- 現場代理人の折衝力強化研修会(共催) 6月21日
- 現場の失敗事例に学ぶ施工管理セミナー 7月25日
- 道路舗装維持管理セミナー 8月21日
- 公共工事の積算セミナー 9月12日
- 現場運営を円滑にする
コミュニケーション能力アップセミナー 9月26日
- 工事成績評定アップ対策ポイントセミナー 10月24日 **オンライン**
- コンクリート維持管理技術講習会(上級編) 2月 6日

(2) 土木工事現場の視察

- 東西線飯田橋・九段下間折返し設備設置九段下工区改良土木工事 5月16日
- 新東名高速道路中津川橋工事 9月4日
- 横浜環状南線公田笠間トンネル工事 11月12日

(3) 異業種他分野等各種施設の視察

- 八重洲エネルギーセンター 10月16日
- 日本航空安全啓発センター 1月23日



令和7年度 定時総会開催

2 関係法令・制度・行政施策等の情報提供

官公庁による法改正や入札契約に関する概要解説の各種説明会を3回開催した。

(1) 法改正等に伴う説明会の実施

- 建設業の取引適正化に関する説明会〔共催〕

11月15日 [オンライン](#)

(2) 入札契約に関する説明会の実施

- 関東地方整備局 入札契約制度に関する説明会〔共催〕
- 東京都 入札契約制度に関する説明会〔共催〕

7月 5日～8月 9日 [オンデマンド配信](#)

8月 1日 [オンライン](#)

3 広報事業

(1) 若年者への魅力ある建設業のPR

若者への建設業のPRと会員企業の人材確保の一助となるよう主に大学生を対象にインターンシップと業界研究のイベントを東京建設業協会と共催し、本イベントの一環として、就職活動をする学生の動向やインターンシップの重要性などについて採用担当者向けに説明会を開催した。

- 採用担当者向けセミナー〔共催〕
- みんなの建設業☆インターンシップ&業界研究フェスタ〔共催〕

7月29日 [オンライン](#)

8月 7日～8日 [オンライン説明会](#)

8月30日～2月23日 [オンデマンド配信](#)

(2) 一般向けの理解促進に関する事業

人々の生活に不可欠でありながら、普段見ることのできないインフラ施設やそれを支える日本の土木技術力を見ていただく機会として、主に一般の親子向けに土木工事現場見学会を開催した。

- 環状七号線地下広域調節池(石神井川区間)工事

8月 2日

(3) 機関誌「DOBOKU 技士会 東京」の発行

機関誌「DOBOKU 技士会 東京」を年4回発行し、会員及び関係行政機関、建設関係団体等に配布した。

- 第97号(令和6年4月)
- 第98号(令和6年7月)
- 第99号(令和6年10月)
- 第100号(令和7年1月)

(4) 土木施工管理に関する情報収集及び提供

講習会・見学会の開催案内の発信をはじめ、ホームページやメール、機関誌を活用して情報を提供し、利便性の向上に努めた。

4 調査研究

講習会で使用するテキストの作成及び研究をはじめ、講習会受講者アンケートや現場見学会受入れ調査などを実施した。

(1) 現場見学受入れ先調査

(2) 事業運営に必要な各種調査の実施

5 表彰

(1) 優良技術者表彰の実施 会員から推薦された優良技術者128名を表彰した。

(2) 各種表彰候補者の推薦 優良技術者表彰の中から12名を(一社)全国土木施工管理技士会連合会が行う表彰に推薦した。

6 連絡協議

(1) 関係行政機関・関係団体との連絡協議

関係行政機関・建設関係団体をはじめ、各地方技士会、(一社)東京建設業協会等と随時情報交換を行った。

7 会議

(1) 総会

【定時総会】5月27日

議決事項 ① 令和5年度事業報告並びに同決算報告に関する件 ② 令和6年度事業計画並びに同収支予算に関する件

③ 役員の任期満了に伴う選任の件

【優良技術者表彰】128名

(2) 理事会

- 【第1回 理事会】 5月27日 ① 令和5年度事業報告並びに同決算報告に関する件
② 任期満了に伴う役員候補者の選出に関する件

- 【第2回 理事会】 3月26日 ① 令和7年度事業計画(案)に関する件 ② 令和7年度収支予算(案)に関する件

(3) 監事会 4月18日 ① 令和5年度事業報告に関する件 ② 令和5年度決算報告に関する件

8 委員会

(1) 総務委員会

【第1回 総務委員会】 12月17日

- ① 令和6年度会員の異動状況と収入状況について
② 令和6年度事業の実施状況について
③ 令和6年度事業の今後の予定について

【第2回 総務委員会】 3月13日

- ① 令和7年度事業計画(案)について
② 令和7年度収支予算(案)について

(2) 事業運営委員会

【第1回 事業運営委員会】 12月 5日

- ① 令和6年度事業の実施状況について
② 今後の事業予定について
③ 優良技術者表彰について

【第2回 事業運営委員会】 3月 6日

- ① 令和7年度事業計画(案)について
② 令和7年度優良技術者表彰について

【講習会グループ会議】 11月20日、2月21日

令和6年度講習会事業の実施状況、令和7年度講習会事業計画(案)などを協議するため開催した。

【現場視察グループ会議】 2月26日

令和6年度現場見学事業の実施状況、令和7年度の現場見学会候補地を選定、協議するため開催した。

【情報・広報グループ会議】 6月14日、11月6日、2月7日

令和6年度事業の機関誌「DOBOKU 技士会 東京」発行及び機関誌100号記念特集、学生向け合同企業説明会、異業種他分野等各種施設見学会、一般向け土木現場見学会候補地を協議するほか、令和7年度の事業計画(案)を協議するため開催した。

事業運営は「講習会」「現場視察」「情報・広報」3つのグループ会議にて企画から検討のうえ実施

令和6年度収支報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

I. 収入の部

(単位：円)

勘定科目 大科目	予算額	決算額	差異
会費収入	34,400,000	33,788,500	611,500
入会金収入	150,000	22,500	127,500
事業収入	6,000,000	4,560,378	1,439,622
雑収入	100,000	65,108	34,892
当期収入合計(A)	40,650,000	38,436,486	2,213,514
前期繰越収支差額	12,240,000	12,475,000	△ 235,000
収入合計(B)	52,890,000	50,911,486	1,978,514

II. 支出の部

(単位：円)

勘定科目 大科目	予算額	決算額	差異
事業費	31,070,000	30,986,789	83,211
管理費	10,240,000	9,692,291	547,709
引当預金支出	400,000	400,000	0
積立預金支出	1,000,000	1,000,000	0
予備費	500,000	0	500,000
当期支出合計(C)	43,210,000	42,079,080	1,130,920
当期収支差額 (A) - (C)	△ 2,560,000	△ 3,642,594	1,082,594
次期繰越収支差額 (B) - (C)	9,680,000	8,832,406	847,594



令和7年度 定時総会開催

第2号議案 令和7年度事業計画並びに同収支予算に関する件

1 技術力向上に関する事業

- (1) 各種講習会等の実施
 - ① 若年技術者向け研修 4回
 - ② 1級土木施工管理技士資格取得講習 2回
 - ③ 基礎的な技能講習 7回
 - ④ 総合的な技能講習 7回
- (2) 土木工事現場の視察 3回
- (3) 異業種他分野の視察 1回

2 関係法令・制度・行政施策等の情報提供

- (1) 法改正等に伴う説明会の実施
- (2) 入札契約に関する説明会の実施

3 広報事業

- (1) 若年者への魅力ある建設業のPR
- (2) 機関誌「DOBOKU 技士会 東京」の発行(年4回)
- (3) 土木施工管理に関する情報収集及び提供

4 調査研究

- (1) 現場見学受入れ先調査
- (2) 事業運営に必要な各種調査

5 表彰

- (1) 優良技術者表彰の実施
- (2) 各種表彰候補者の推薦

6 連絡協議

- (1) 関係行政機関・関係団体との連絡協議

7 会議

- (1) 総会
 - ① 定時総会 ② 臨時総会
- (2) 理事会
- (3) 監事会

8 委員会

- (1) 総務委員会
- (2) 事業運営委員会
 - ① 講習会グループ会議
 - ② 現場視察グループ会議
 - ③ 情報・広報グループ会議

9 その他

- (1) 設立30周年記念事業の検討 (2) 事務局の移転

令和7年度収支予算

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

I. 収入の部

(単位：円)

勘定科目 大科目	令和7年度 予算額	令和6年度 予算額	増減
会費収入	34,300,000	34,400,000	△ 100,000
入会金収入	150,000	150,000	0
事業収入	6,000,000	6,000,000	0
雑収入	100,000	100,000	0
当期収入合計(A)	42,550,000	40,650,000	1,900,000
前期繰越収支差額	8,940,000	12,240,000	△ 3,300,000
収入合計(B)	51,490,000	52,890,000	△ 1,400,000

II. 支出の部

(単位：円)

勘定科目 大科目	令和7年度 予算額	令和6年度 予算額	増減
事業費	32,860,000	31,070,000	1,790,000
管理費	10,550,000	10,240,000	310,000
引当預金支出	400,000	400,000	0
積立預金支出	1,000,000	1,000,000	0
予備費	0	500,000	△ 500,000
当期支出合計(C)	44,810,000	43,210,000	1,600,000
当期収支差額 (A) - (C)	△ 2,260,000	△ 2,560,000	300,000
次期繰越収支差額 (B) - (C)	6,680,000	9,680,000	△ 3,000,000

講演会

定時総会閉会後、会場を1階「曙の間」に移して行われた講演会では、ネムリノチカラ代表のヨシダ ヨウコ氏を講師としてお招きし、日常生活における「眠り」の大切さ、食事・運動と同じく睡眠にも気を配る必要があることなどを話していただいた。

生涯現役！ 人生100年時代を乗りこなす 睡眠術とタイムマネジメント

人間は寝ている間は何もできないため、「睡眠に時間を費やすのは生産性がなくムダである」と思われがちで、仕事や雑事に追われるあまり睡眠時間を削ってしまう人も多い。しかしヨシダさんは、「睡眠には『成長ホルモンの分泌』『細胞の新陳代謝』『老廃物の排出』などのメリットがあり、眠っている間に体内では『直す(治す)』『片づけ』『交換』という重要な作業が行われているため、その時間を削減するのは健康上のリスクとなる。むしろ睡眠時間をしっかり確保するために時間をつくる工夫が必要」と説明した。

■「睡眠」に費やす時間を考える

推奨される睡眠時間は年代によって異なり、20代～60代の大人には7～9時間の睡眠が必要とされている。しかし3～4時間しか寝ていないという人も会場には見受けられ、「寝るための時間」をいかにして捻出するかが現代人の課題といえる。そのためヨシダさんは、限りある時間を生み出すために時間の有効な使い方や最適な時間帯に最適な食事を摂る「適材適食」の考え方などを披露。「体



講師

ヨシダ ヨウコ 氏

ネムリノチカラ代表

マイナス1歳～88歳までの
快眠コンシェルジュ

寢具店の娘に生まれ、20代前半で出版社に入社。女性誌担当として多忙を極めた結果、極端な睡眠不足から前髪だけが真っ白になってしまい、睡眠の重要性を再認識して睡眠改善の仕事を始める。オリジナル「入眠体操(スリープイン ストレッチ)」とマインドフルネスを交え、「ウェルビーイング」「健康経営」「安全運転支援」「メンタルヘルス」の一環としての睡眠改善研修やセミナーに力を入れている。

内時計」を大切にすることを説いた。また、大谷翔平、ウォーレン・バフェット、イーロン・マスク、ジェフ・ベゾスといった有名アスリートや投資家、世界企業のトップなど超多忙と思われる人物でも睡眠時間は重要視しており、しっかり寝ることを前提としたスケジュールを組んで最大のパフォーマンスを発揮していることも強調した。

■「よく眠る」ための運動、呼吸法

講演会では、身体を緩めて緊張をほぐし、リラックス効果が得られる「筋弛緩法」や「4-7-8呼吸法」の実践コーナーもあり、参加者は理想的な睡眠のために日常でできる運動法に興味津々だった。

(一社)東京建設業協会・東京土木施工管理技士会 合同懇親パーティー

定時総会・講演会の終了後、2階「富士の間」にて(一社)東京建設業協会と合同の懇親パーティーが行われた。はじめに主催者代表として同協会の乗京正弘会長より開会挨拶があり、続いて菅野弘一自民党都連幹事長、河西宏一公明党都本部副代表、都

議会議員、東京都幹部の来賓からの祝辞、さらに技士会・清水琢三会長による乾杯の発声、新副会長となった篠原賢至氏の挨拶、副会長を退く清原啓太氏への花束贈呈も行われた。



退任挨拶をする清原啓太副会長



懇親パーティーの様子



会長挨拶



定時総会の開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。会員の皆様には、ご多忙のところご出席いただき誠にありがとうございます。また、日頃より当会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、このところ、地震、津波、豪雨、また高波、高潮災害など自然災害が激甚化・頻発化しています。国土強靱化による事前防災の推進が、国民の生命と財産を守り、日本の経済を持続的に発展させるための喫緊の課題です。インフラの整備と維持更新を支える我々土木技術者の皆様の役割がますます重要になっています。

建設業におきましても、担い手の確保・育成のため、魅力ある建設産業に変革することが待ったなしの状況です。昨年4月から、時間外労働の上限規制が適用されたこともあり、建設業の働き方改革とそれを実現するための生産性向上の取り組みがこの数年で大きく進展しました。また、週休2日の確保と、時間外労働の削減、賃金アップに加えて、女性や外国人が働きやすい職場環境の整備が進められており、土木技術者の処遇は大きく改善しています。

また、生産性向上につきましても、「i-Construction 2.0」では、現場の省人化にスポットを当て、施工のオートメーション化、あるいはBIM/CIMの活用によるデータの連携、そして施工管理のデジタルトランスフォーメーションが一層推進されています。

そのような中、当会は、土木技術に関する講習会や現場見学会の開催を通じて、土木技術者の教育並びに成長を促す機会を提供するという大変意義深い活動を行っております。今年度も引き続き、各種講習会などの実施及び建設業の魅力を発信する広報活動に努めて参りますので、会員各社の土木技術者の育成、技術力向上に、ぜひ皆様でご利用いただければと思います。

本日は総会の後、優良技術者の表彰式を行います。また、総会終了後には、講演会、並びに東京都建設業協会と合同で懇親パーティーを予定しております。長時間にわたりますが、皆様のご協力をお願いしまして開会の挨拶とさせていただきます。

東京土木施工管理技士会 会長 しみず たくぞう 清水 琢三

副会長の選任

清原啓太副会長(戸田建設株式会社)の退任に伴い、後任の副会長について会則に基づき理事会において審議の結果、篠原賢至理事(戸田建設株式会社・常務執行役員土木工事統轄部統括部長)が選任されましたので、ご報告いたします。なお、現在の役員は下記のとおりです。



副会長(戸田建設株式会社) しの はら けん じ 篠原 賢至

新役員名簿

役 職	氏 名	所 属 会 社
会 長(理事)	清水 琢三	五洋建設株式会社
副会長(理事)	篠原 賢至	戸田建設株式会社
副会長(理事)	齊藤 武文	清水建設株式会社
理 事	佃 陸郎	あおみ建設株式会社
理 事	曾根 浩	株式会社安藤・間
理 事	大信田 秀治	オリエンタル白石株式会社
理 事	吉弘 英光	鹿島建設株式会社
理 事	小酒井 聡	株木建設株式会社
理 事	中山 猛	株式会社熊谷組
理 事	小川 典男	坂田建設株式会社
理 事	三澤 早登志	佐藤工業株式会社
理 事	石丸 智実	大成建設株式会社
理 事	岩崎 延宏	大豊建設株式会社
理 事	白井 稔久	鉄建建設株式会社
理 事	三輪 昌義	東急建設株式会社
理 事	佐藤 眞一	東洋建設株式会社
理 事	阪口 朗	飛島建設株式会社
理 事	杉山 薫	株式会社ナカノフドー建設
理 事	宗澤 敦郎	西松建設株式会社
理 事	澁谷 博志	日本道路株式会社
理 事	林 清一	林建設株式会社
理 事	篠原 博	株式会社フジタ
理 事	小島 靖雅	前田建設工業株式会社
理 事	矢野 安則	三井住友建設株式会社
理 事	相良 宏介	みらい建設工業株式会社
理 事	坂田 真一	個人会員
監 事	芦澤 常幸	ショーボンド建設株式会社
監 事	福岳 雄一郎	常盤工業株式会社
監 事	椎名 厚	三井住建道路株式会社
常務理事	市川 光一	東京土木施工管理技士会



令和7年度 定時総会開催

令和7年度優良技術者表彰

定時総会議事終了後、優良技術者表彰式を執り行った。受賞者【技術者表彰規程 第2条第2項該当者】107名、【技術者表彰規程 第2条第4項該当者】5名、【技術者表彰規程 第2条第5項該当者】7名を代表して、第2条第2項受賞者 鹿島建設株式会社 西山卓朗 氏に、清水会長より賞状と記念品が授与された。



清水会長から表彰状を受け取る西山氏



代表受賞者の西山氏

令和7年度優良技術者表彰受賞者

【技術者表彰規程 第2条第2項該当者】107名

国・地方公共団体等が発注した工事で、当該団体から優良工事として表彰を受けた工事に、現場代理人、監理技術者等の立場で業務に従事し、特に優秀な成績をあげ、他の模範となる者

(氏名五十音順)

諫山 利美	常盤工業株式会社	大川内 省吾	福田道路株式会社	木村 哲士	ショーボンド建設株式会社
石井 喬久	東亜建設工業株式会社	大迫 誠吾	東亜建設工業株式会社	木元 貴紀	前田道路株式会社
伊藤 隆晴	株式会社NIPPO	大下 和男	日本道路株式会社	桐原 徹	日本道路株式会社
伊藤 悠樹	日本国土開発株式会社	大塚 亘	成友興業株式会社	串田 拓也	大林道路株式会社
井上 渚沙	みらい建設工業株式会社	大西 義隆	株木建設株式会社	工藤 修一	坂田建設株式会社
岩居 博文	清水建設株式会社	長田 裕美	大豊建設株式会社	熊谷 宏	大林道路株式会社
上田 茂幸	フジタ道路株式会社	小沼 史明	大林道路株式会社	釧持 孝一	フジタ道路株式会社
上田 保	五洋建設株式会社	尾前 勇	坂田建設株式会社	小池 成三	常盤工業株式会社
宇賀神 輝高	フジタ道路株式会社	香月 宗樹	飛島建設株式会社	小杉 英信	大林道路株式会社
宇佐美 克則	東亜建設工業株式会社	金田 一文	岩田地崎建設株式会社	駒 勝彦	オリエンタル白石株式会社
遠藤 秀和	日本道路株式会社	北川 保裕	福田道路株式会社	坂本 一真	東洋建設株式会社
笈沼 洋一	株木建設株式会社	木村 誉哉	大成建設株式会社	坂本 卓大	日本道路株式会社

佐久間 圭介	大林道路株式会社	中内 健介	五洋建設株式会社	松浦 拓也	ピーエス・コンストラクション株式会社
佐々木 茂	常盤工業株式会社	中川 貴史	東鉄工業株式会社	松田 孝彦	岩田地崎建設株式会社
佐藤 恵一	前田建設工業株式会社	中野 貴文	株式会社NIPPO	松永 光俊	日本国土開発株式会社
佐藤 雄	ショーボンド建設株式会社	中村 康二	株式会社富士土木	松本 剛	株式会社エコワーク
澤田 邦博	飛島建設株式会社	中村 雄輝	日本道路株式会社	丸山 博司	大豊建設株式会社
塩浦 直樹	東鉄工業株式会社	中村 慶克	栄都建設株式会社	峯本 大河	ショーボンド建設株式会社
芝田 貴昌	株式会社アスピア	並岡 知幸	株木建設株式会社	宮城 真人	松鶴建設株式会社
鈴木 健次	東鉄工業株式会社	南部 拓歩	東洋建設株式会社	宮崎 俊	五洋建設株式会社
鈴木 秀明	東鉄工業株式会社	西原 諒	株式会社エコワーク	宮本 大輝	東急建設株式会社
住本 和朗	大林道路株式会社	西村 俊輝	ショーボンド建設株式会社	三好 隼矢	成友興業株式会社
関根 健男	東洋建設株式会社	西山 卓朗	鹿島建設株式会社	村木 義和	東洋建設株式会社
高橋 茜音	前田道路株式会社	野上 摂理	大豊建設株式会社	望月 一	株式会社竹中土木
高橋 恵介	ショーボンド建設株式会社	野村 航士郎	常盤工業株式会社	森 高章	株式会社不動テトラ
高橋 晋	大豊建設株式会社	萩原 浩志	株木建設株式会社	八木 久貴	東亜建設工業株式会社
竹本 恒範	株木建設株式会社	橋本 聡	大成建設株式会社	柳井 雅之	戸田建設株式会社
田中 忠昭	株式会社富士土木	橋本 利行	共立建設株式会社	山口 真一郎	日本道路株式会社
田中 寿長	東亜建設工業株式会社	林 一成	坂田建設株式会社	山田 優樹	みらい建設工業株式会社
玉置 一哲	福田道路株式会社	古館 知武	前田道路株式会社	山本 弘記	飛島建設株式会社
田村 弘一郎	児玉建設株式会社	保坂 光信	オリエンタル白石株式会社	若林 佳祐	常盤工業株式会社
田村 章后	大成建設株式会社	保泉 智之	フジタ道路株式会社	若宮 貴志	共立建設株式会社
田村 佳之	共立建設株式会社	堀越 利之	共立建設株式会社	若山 敬司	東亜建設工業株式会社
知久 達哉	大豊建設株式会社	本間 正樹	前田道路株式会社	和田 公明	岩田地崎建設株式会社
津曲 祥彰	株式会社ガイアート	前田 基貴	前田道路株式会社	渡辺 健太郎	松鶴建設株式会社
手島 秀典	五栄土木株式会社	前畑 賢志	フジタ道路株式会社		

【技術者表彰規程 第2条第4項該当者】5名

土木施工技術に関する発明、実用新案、新技術の開発及び論文等に対し公的機関から表彰された者

(氏名五十音順)

裏山 昌平	鹿島建設株式会社	小泉 俊昌	鹿島建設株式会社
折田 紘一郎	東急建設株式会社	中山 亘	東急建設株式会社
梶原 覚	株式会社NIPPO		

【技術者表彰規程 第2条第5項該当者】7名

土木施工管理技術を活かして災害復旧作業や調査等のボランティア活動に参加し公的機関等から表彰状、感謝状を受けた者、または個人として上記活動に参加した者

(氏名五十音順)

朝倉 良介	鹿島建設株式会社	中島 浩	株式会社安藤・間
岩崎 清一郎	株式会社安藤・間	西川 昌平	五洋建設株式会社
久保 達也	鹿島建設株式会社	長谷川 直也	五洋建設株式会社
関 雅人	清水建設株式会社		